

地球ひろば

ともにつくる ぼくらの未来

協力: JICA (ジャイカ)
https://www.jica.go.jp/hiroba/

インド②



- 国名 インド
- 面積 328万7469平方キロメートル (日本の8.7倍弱)
- 人口 約12億人 (2011年国勢調査)
- 言語 公用語はヒンディー語、準公用語は英語、ほか
に憲法で公認されている州の言語が21
- 宗教 ヒンズー教 (約80%)、イスラム教 (約14%)、
キリスト教、シーク教、仏教など
- 時差 3時間半 (日本が進んでいる)

地下鉄が通じて意識も変化



ニューデリーの人々の足となった「デリー地下鉄」。
列車の到着を列に並んで待つようになりまし

JICA 地下鉄専門家 鶴丸雅徳さん

6年前まで地下鉄の専門家としてブルガリアやトルコで仕事をしていました。その後、インドの首都デリーで地下鉄が安全で確実に造られて走るように、技術的なアドバイスをしています。設計者が作る書類に間違いがないかを確認して、より安全な構造になるように設計図を修正したり、工事現場に足を運び、設計どおりに工事が行われているか、作業員が安全に仕事をしているか確認したりもしています。



オフィスでも書類の確認などをします

インドの発展と交通渋滞

インドはここ数年で大きく経済成長し、自動車を購入できる人々も増えてきました。一方で、交通渋滞や、それに伴う大気汚染や騒音などが大きな問題となっています。自動車やバイクのかわりに、デリー地下鉄を利用する人が増えれば、これらの問題の改善にもつながります。

粘り強く伝える

例えば、日本では工事をするのにヘルメットや靴など安全装備を着用することが当たり前ですが、インドでは必ずしもそういった文化は根付いていません。そう



工事現場では事故が起きないように細心の注意を払います



した中で、日本の安全意識を伝えることに苦労しています。共通の理解を得るために、現場の若い作業員など全ての人とできる限りコミュニケーションをとるようにしています。怒るとへそを曲げてしまうこともあるため、怒らずニコニコ話し合うことが、インドで仕事をするコツだと感じています。

「時間通り」「快適」「安全」

人々が地下鉄を使うようになり、交通事故が大きく変わりました。列車が時間通りに来ないことが当たり前だったインドで、日



先頭車両は「女性専用(Women Only)」です

本の技術を取り入れたデリー地下鉄は、「時間通り」で「快適」で「安全」に運行され、今ではなんと、総延長300キロ強、1日約300万人が利用しています。女性専用車両が設置され、女性も安心して利用できるため、女性の社会進出にも大きく貢献しています。また、これまで列に並ぶという習慣があまりなかったインドの人々が列に並ぶ場面もあり、地下鉄を通じて人々の意識改革にもつながっていると感じています。

はじめよう SDGs

調べてみよう 考えてみよう



Q1 私たちの日常生活を支えるインフラには、どんなものがあるだろう? 身の回りに目を向けて、調べてみよう。

Q2 新しいインフラの一つにインターネットがあります。日本のインターネットの普及率は世界で9番目に高いです。何%ぐらいだと思いますか?

まなものによって支えられ

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



質の高いインフラ

私たちが生活は、さまざま
ています。鉄道やバスなどの交通、学校や病院などの施設、電力などのエネルギーや安全な水を供給する施設、インターネットなどの情報通信——こうした経済活動に必要なものをインフラ(インフラストラクチャー)といいます。多くの開発途上国はインフラが未整備のために経済的な自立が困難な上、社会的サービスを受けられず貧困層の増加や、社会不安の高まりにつながっています。SDG9では、国の成長を支える質の高いインフラを整え、すべての人が快適で安全な生活を送れるよう目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

持続可能な開発目標 SDGs

(Sustainable Development Goals)

2015年に国連の場で加盟国が決めた30年までの世界の目標です。

